

高齢者の困りごとを 地域で支える暮らしづくり

2021年度生活支援コーディネーター活動報告



目次 contents

.....02

01

生活支援体制整備事業の概要.....03

02

15地区の活動報告.....04

① 本庁地区	マンションの繋がりがづくり04
② 矢切地区	住民主体による移動支援活動の実験運行06
③ 東部地区	居場所開設のサポートとフレイル予防支援者養成講座の開催08
④ 明第1地区	地域との繋がりをつくるためのニュースレターの発行とスマホ相談会の開催10
⑤ 明第2西地区	介護事業所と民生委員への防災勉強会の開催と防災相談の啓発12
⑥ 明第2東地区	防災士が語る"イザというときの備え"～コロナ禍でもできる防災アクション～14
⑦ 常盤平地区	災害に備える地域づくり～お互いにたすけあえるまちを目指して～16
⑧ 常盤平団地地区	常盤平団地でhappyに暮らそう ～外に出て楽しく過ごそう～18
⑨ 五香松飛台地区	地域を楽しく歩いて、認知症予防 ～まちを知ろう～20
⑩ 六実六高台地区	わたしたちのまち"六実六高台"のタカラの地図を作って歩こう22
⑪ 小金地区	小金にこんなことあったらいいなプロジェクト～地域の助け合い活動について考える～24
⑫ 小金原地区	8050・ひきこもりを当事者の視点から考える～困りごとをキャッチできる地域を目指して～26
⑬ 新松戸地区	歩き続けられる街を目指した、公園での健康づくり活動&ベンチプロジェクト28
⑭ 馬橋西地区	男性シニアの社会参加を当事者に近い属性の方々と共に考える30
⑮ 馬橋地区	高齢者×ペット問題を地域で予防するためのコミュニティづくり32

03

地域づくり報告会レポート.....33

事業の概要

生活支援体制整備事業

(生活支援コーディネーター)について

後期高齢者・単身世帯の増加から、介護を必要としないまでも、軽度の**生活支援・介護予防**を必要とする高齢者が増加しており、地域の体制を考える必要性が高まっている。



地域で起きている「**日常の困ったな**」をみんなで解決できないだろうか。

地域で長く元気に生活できる仕組みを、地域の皆さんと一緒に考えて、地域に合った形を作っていくものです。

地域に必要な「生活支援・介護予防」とは？

例えば /

- ・地域のサロンの開催
- ・見守り、安否確認
- ・外出支援
- ・買い物、調理、掃除など...

こういった活動に参加(社会参加)することも介護予防に効果があることがわかっています。

一律の制度では、地域の
実情やニーズとミスマッチを
起こしがち...

そのため /

- ・地域によって異なる課題に合わせて
- ・地域に**合った形**を考えていく必要がある。



生活支援コーディネーターがサポートします!!

生活支援コーディネーター(地区担当/日常生活圏域別)



松村 大地

担当地区...本庁・矢切・東部・明第1・明第2西



山崎 恵

担当地区...明第2東・常盤平・常盤平団地・五香松飛台・六実六高台



阿部 剛

担当地区...小金・小金原・馬橋・馬橋西・新松戸



①本庁地区

マンションの繋がりづくり

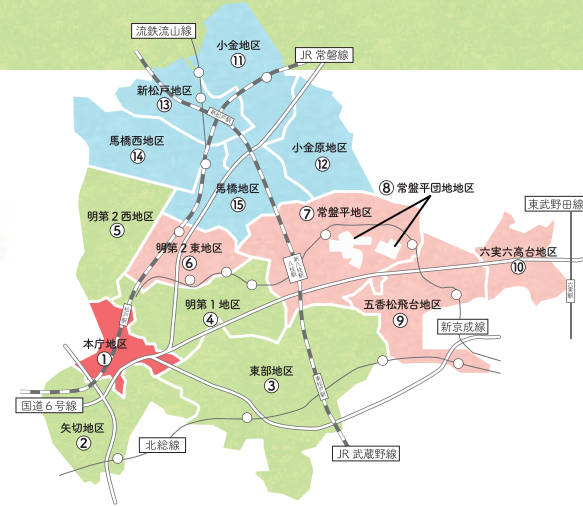
本町・松戸・小山・二十世紀が丘美野里町

令和2年10月時点

総人口	25,117人
65歳以上	5,158人
高齢化率	20.5%
75歳以上人口比率	10.3%



市平均25.7% ※15地区内で一番低い
市平均13.4% ※15地区内で一番低い



元気応援くらぶ=4ヶ所

- ・松戸駅、松戸神社、キテミテマツド等商店などランドマークが並ぶ
- ・マンション(小中大規模いずれも)が多い。

マンション+コミュニティPJ(2層ワーキング)

マンション住民の高齢化に対して、住民間のつながりやコミュニティ意識を醸成していくプロジェクトチーム(昨年度から継続)

メンバー

- ・マンション住民
- ・マンション管理士
- ・地域包括支援センター
- ・地域包括ケア推進課
- ・生活支援コーディネーター

仮説

解決に向けた仮説とプロセス

(1)繋がりや早期支援の糸口になるのではないかな?

高齢者自身がハイリスクな状態になる前に、マンション居住者内や支援機関、自治組織等と繋がりがあることで、高齢者本人の生活機能を維持することができるのではないかな?
⇒本人だけでなく、広く居住者や地域住民が支援機関の役割や機能を知っていることで、高齢者を早期に支援へつなげることができるのではないかな?

(2)マンション運営やコミュニティ形成を、地域で支え合えないかな?

マンション運営やコミュニティ形成など「繋がりづくり」に課題意識を持つ住民が情報交換/共有など情報を知る機会があることで、マンション居住者間のコミュニケーションの機会やきっかけが増え、(1)にも良い影響を及ぼすのではないかな?

プロセス

マンション+コミュニティPJ

①課題意識を持つ

住民がつながる(情報を知る)

マンション運営やコミュニティの情報

地区の支援機関を知る

ハイリスクの高齢者の現状を知る

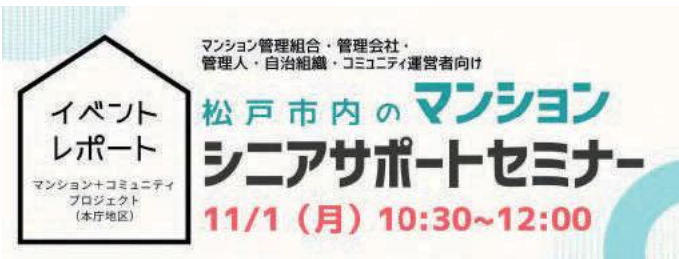
②住民間のコミュニケーション増加

(ディスカッション)

マンションやコミュニティでできることを考える

③多面的な繋がりや支え合いの意識が醸成

高齢者への支え合いがマンション内や地域の防災や防犯にも波及する



会場：ゆうまつど

参加者：16名(管理組合、管理会社、マンション住民)

高齢者支援やマンション管理に関するサポート(主に行政サポート)先の認知度向上、マンション運営や居住する高齢者に課題意識を感じている方々の繋がりを目的としたセミナーを開催

トーク①

(一社)千葉県マンション管理士会

松田正さん・山田清司さん

松戸市は県内でもいち早くマンション管理に関する対策を開始し、独自でパンフレットを発行。松戸市で主催しているマンション管理セミナーの内容や、個別相談会でどんな内容のご相談ができるかなどもご紹介いただき、老朽化しているマンションの管理組合役員の方などから質問もあり、活発な意見交換がなされました。

トーク②

本庁地区高齢者いきいき安心センター
センター長佐藤紫さん

マンション住民から実際に寄せられた高齢者に関する相談や事例についてお話いただきました。セキュリティがあることで支援が入りづらい現状や、支援を求めることが難しい方も多くいることを知っていただく機会となりました。また、マンション管理にご興味があってご参加された方も、高齢者いきいき安心センターの存在やつながりの重要性を考えるきっかけとなったのでは、と考えております。

おみやげ



アフタートーク・感想

共通の悩みを持つためか、休憩やセミナー後に自然と交流が発生していました。

出張講座をしてほしいと思いました。(管理組合役)

具体的な相談先がわかってよかったです。(住民)

この度の機会ですぐ窓口が増え相談しやすくなりました。(管理組合役員)



高齢化するマンションが増えているため、市の取り組みや高齢者支援の制度などを知ることができてよかった。今後も同様のセミナーがあれば案内してほしい。(マンション管理会社)

今後に向けて

<“横のつながり”の拡充>

交流を通じて、本庁地区以外にもマンション運営やコミュニティ運営に意識がある住民がつながり、情報交換を活性化させて、ノウハウを構築する(マンションにおけるコミュニティ運営に関する冊子の作成を視野に)。

<コミュニティ運営のサポート>

11月1日セミナーを通じて、既に本庁地区のマンションで地域包括支援センターによる出前講座などを実施。今後もニーズに合わせてコミュニティが活発になるサポートを行いたい。

② 矢切地区

上矢切・中矢切・下矢切・三矢小台1～5丁目
二十世紀が丘柿の木町・二十世紀が丘
萩町・大橋〔旧有料道路(県道松戸・原木線)西側〕・栗山

住民主体による 移動支援活動の実験運行

令和2年10月時点

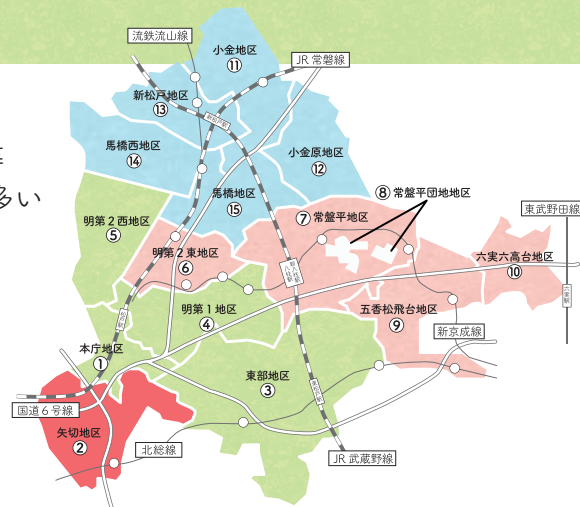
総人口	19,368人
65歳以上	5,166人
高齢化率	26.7%
75歳以上人口比率	14.7%

栗山、上矢切、下矢切等
交通に不便なエリアが多い

市平均25.7%

市平均13.4%

元気応援くらぶ=8ヶ所



昨年度地域住民へのヒアリングと移動支援に関する勉強会を経て、移動支援実現に向けた有志を募り、検討を開始した。

“ハートパス矢切”
地域に住む人の心(ハート)をつなぎ
生きがいにもつながる移動支援

<メンバー>

- ・町会長
- ・矢切地区社会福祉協議会会長
- ・矢切地区民生委員児童委員協議会会長副会長など
- ・特別養護老人ホーム
- ・元気応援くらぶ運営者
- ・松戸市社会福祉協議会
- ・矢切地区高齢者いきいき安心センター
- ・松戸市地域包括ケア推進課
- ・まつどNPO協議会

移動支援の概要

- 目的: 閉じこもり傾向にある方々に対して、移動面を解決することで生活活動範囲の拡大のみならず、人との繋がりやコミュニケーションを通じて、社会への参加や自立支援につなげること
- コンセプト: 住民主体として「まずやってみる」ことから始める
- 地域資源との連携
 - ・車両/運転手/乗降サポート: 特別養護老人ホームなどでしこさん
 - ・活動への参加/利用者: 矢切地区社会福祉協議会かもめの会さん
- 内容: 移動困難を理由に不参加だった方や支援を希望するかもめの会登録者を対象に総合福祉会館と自宅間の送迎を行う。
- 車両: ハイエース(乗車人数: 6名+車椅子2台)
- 方法順番に各宅へ個別訪問
 - ・送迎利用に向けて、実施日までに事務局より連絡・訪問し、説明(送迎時間)と同意書署名をいただいた

当日の様子

利用者 5 名

2022年2月26日(土) 13時～14時30分

内容: 活動報告・ボランティア説明

参加者: 19名

ハートパス矢切



移動支援 試験運行中



今後に向けて

中心となって参画した民生委員さんからのコメント

- これから取り組んでいく課題-

- ・組織作り(役割分担・チーム編成)
- ・車両やボランティア(運転手、付添者など)の確保
- ・対象者、活動頻度の決定

- 可能性(今後に向けて)-

地区の現状やニーズに見られるように、移動手段に困っている人が多数おられる。もっと楽に行きたいところに移動できたらと思うと、人の行動範囲も広がり、人と人との繋がりも深まり、何よりも生活が楽しく変わってくる。

ハートパス矢切では、矢切地区でも特に交通の便が悪い栗山・下矢切・中矢切・上矢切などの交通手段として移動支援の実現を目指して約1年間取り組んできた。

結果的には、1回の実験運行に留まったが、この経験を受けてさらに運行を継続していきたい。次年度は、「かもめの会」と同様に「ふれあい会食会」(矢切地区社協)への参加者への移動支援もできたらと計画を立てている。

これからの時代、総合福祉会館の利用・活用は、ますます増加してくるものと思われる。また、総合福祉会館へ来て、ここから次の目的地に向かう。なんと心豊かな、心わくわくする地域生活でしょう。

ハートパス矢切では、そんな地域生活の実現を目指した移動支援の取り組みを進めていけたらと考えます。

まだまだ始まったばかりの取り組みではありますが、**地域や町会の手をお借りしながら**地域の移動手段の支援のためにさらに一歩前進していきたい。

③ 東部地区

居場所開設のサポートと フレイル予防支援者養成講座の開催

河原塚・田中新田・紙敷・紙敷1～3丁目・東松戸1～4丁目
 秋山・秋山1～3丁目・高塚新田・和名ヶ谷
 大橋〔旧有料道路(県道松戸・原木線)東側〕・二十世紀が丘丸山町
 二十世紀が丘中松町・二十世紀が丘戸山町・二十世紀が丘梨元町

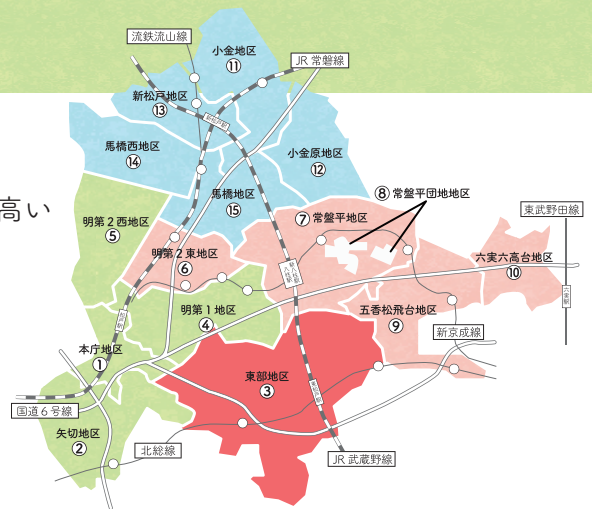
令和2年10月時点

総人口	49,759人
65歳以上	10,294人
高齢化率	20.9%
75歳以上人口比率	10.6%

人口増減率
(64.1%/H28時点)が高い

市平均25.7%

市平均13.4%



元気応援くらぶ=5ヶ所



昨年度開催したまち歩きイベントから発展し、
 より“日常的な繋がり”をテーマに、今年度2つの取り組みを展開。



フレイル予防を
サポートする人材の育成



うきうきハウス
(地域の居場所)の開設

居場所開設のサポート

- 大橋地区で空きスペースを地域に開放したいという相談が受ける。
- 開設に向けて関係者(相談者地域住民、元町会長、地域包括支援センター、松戸市社会福祉協議会、地域共生課等)で検討。
- 運営方法の検討、チラシ作成、広報などでサポートを行なった。
- 2021年8月から開き、卓球の利用、やさい直売や東部地域包括支援センターによる出張相談会など実施している。

誰でも遊べる
まちのきょうけいじょ
**板の下の
うきうき
ハウス**

卓球ができる (1人でも) テレビ・音楽鑑賞 勉強ができる 団体での活動や 金銭ができる

料金 ▶ **無料** 時間 ▶ **10時～17時** 定休日 ▶ **火・水曜日**

※団体利用の場合は 事前予約制(要予約)

定期開催
 健康福祉相談会 第2金曜日 10時～11時
 健康や介護などの悩みごとを、相談員がやさしい安心センターの専門職に相談できます
 やさい直売 毎週土曜日10時～ 不定期火曜日10時～

豊富な設備や備品!
 Wi-Fi完備、卓球台2台/テール(約10名掛け)卓球コート、ピアノ、DVD、電子30種レコード(レコードプレーヤーあり)、液晶テレビ70インチ(10M/ケーブル5m付属)、健康器具類、掃除機、洗濯機・乾燥機

MAP 松戸市大橋1102 東部地区総合福祉センター1105-1 ミニストップ(コンビニ)のとなりです

予約/問合せ先
 お問合せ: 090-8847-8623 (担当: 浮ヶ谷)
 080-5873-6422 (担当: 小塚)
 予約方法: FAXでの申し込み/047-392-2286
 運営: 板の下のうきうきハウス立ち上げ実行委員会

フレイル予防支援者養成講座の開催

初級コース：参加者21名

ステップアップコース：参加者19名

対象・目的

地域やコミュニティに高齢者を支える役割がある方を主対象として、自らのフレイルの意識を高めると同時に、各々の活動にフレイルの視点を活かすことで、コミュニティ活動へ更なる活性化のきっかけを与えること、体操実施を呼びかけ合うような関係性を醸成することを目的に開催。

関係者（ステークホルダー）

企画をまつど NPO 協議会（生活支援コーディネーター）、講座監修・講師を松戸リーダーズクラブ（代表：野毛哲郎）、地域包括ケア推進課フレイル予防事業の『まつどフレイル予防チャレンジ』を受けた南山カフェ（河原塚南山）を実施会場とし、自治会長、民生委員、高齢者支援連絡会相談員、オレンジ協力員が参加。

初級コース（2時間）

- ・フレイル予防概論
- ・フレイルチェック方法論
- ・フレイルチェック（握力/30秒起立/片足立ち）
- ・介護予防体操実践



ステップアップコース（2時間）

- ・フレイルクイズ（初級コース振り返り）
- ・ケーススタディ30分
- ・フレイル予防支援者心得
- ・フレイルチェック（握力/30秒起立/片足立ち）
- ・介護予防体操実践・演習



今後に向けて

<居場所（うきうきハウス）の周知>

地域住民を中心に、さらに周知を広げていくために、市民活動団体や企業などを巻き込んだイベント開催を検討。さらに、多世代の居場所としての可能性を町会長等などで検討していきたい。

<フレイル予防支援者の活躍の幅>

- 「フレイル」の視点を生かした日常の中でのコミュニケーションや関わり方について、地域住民と検討していきたい。
- 養成講座の拡充に向けて、地域包括ケア推進課フレイル予防班と連携をし、他地区への展開に向けて検討していきたい。

④明第1地区

根本・吉井町・小根本・緑ヶ丘1～2丁目
松戸新田・仲井町1～3丁目・稔台・稔台1～8丁目
岩瀬・野菊野・胡録台

地域との繋がりをつくるための
ニュースレター発行とスマホ相談会の開催

令和2年10月時点

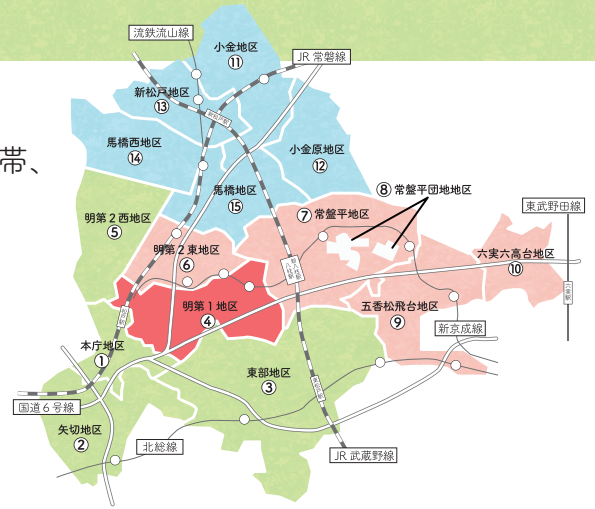
総人口	57,495人
65歳以上	12,997人
高齢化率	23.2%
75歳以上人口比率	11.9%

土地の起伏、工場地帯、
住宅街が立ち並ぶ

市平均25.7%

市平均13.4%

元気応援くらぶ=10ヶ所



2020年度テーマ

地域や趣味活動・コミュニティと接点の持てないような
地域住民（特にシニア男性）の
社会参加（参加役割出番）を創出する

2021年度テーマ

再検討

コロナ禍で途絶えてしまった
地域の繋がりを創出する

明るさ一番メンバー（2層ワーキング）昨年度より参画メンバーが増加

- ・地区会役員
- ・地区社協役員
- ・町会/自治会長
- ・民生委員
- ・老人会役員
- ・連合町会福祉部会
- ・地域住民
- ・小学校PTA
- ・子ども食堂運営者
- ・大学生
- ・松戸市社会福祉協議会
- ・地域包括支援センター
- ・松戸市地域包括ケア推進課
- ・生活支援コーディネーター

スマホ教室の企画・開催（2021-）

スマホの困りごと解決を通じてコミュニケーションや繋がりを作る

- ・メンバーからの、新型コロナワクチンの予約が取れない高齢者が多いという状況に着目
- ・対象イメージ
- ・スマートフォンを買ったが使い勝手がわからないような高齢者
- ・相談対応
- ・明るさ一番メンバー+岩瀬自治会役員
- ・専門家が対応するのではなく、スマホに慣れているシニアや現役世代・大学生と一緒に操作を試したり、検索しながらコミュニケーションの中で対応



スマホ使い方相談会2回開催

- ・稔台市民センター（2022年1月21日）
参加者10名（60代1名、70代5名、80代3名、90代1名）
- ・岩瀬自治会集会所（2022年1月27日）
参加者4名（50代1名、60代1名、70代1名、80名2名）



明るさ一番ニュースレターの作成・発行(2020-)

新型コロナウイルスで途絶えてしまった地域との繋がり
の回復/きっかけを生むことを目的に地域情報の発信

昨年度からの継続活動。
今年度より編集チーム
を立ち上げ、若年層の
地域住民が参画。

明るさ一番
ニュースレター



地域住民の手を介して届ける



より多くの地域住民へ



Vol.2 2021年 秋号



Vol.3 2022年 春号



地域づくり交流会

2022年3月29日(火)

13時~14時30分

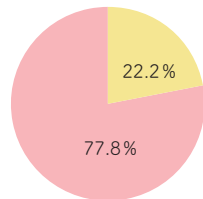
内容: 活動報告+ボランティア説明

参加者: 19名

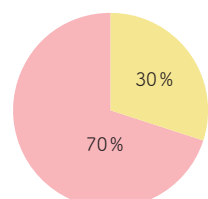


地域づくり交流会で報告した スマホ相談会参加者アンケート結果より(一部)

相談会の満足度は
いかがですか?



またこのようなスマートフォン
相談会があれば
参加したいと思いますか?



- とても満足した
- 少し満足した
- あまり満足できなかった
- 全く満足できなかった
- ぜひまた参加したい
- 機会があれば参加したい
- あまり参加したくない
- 全く参加したくない

今後に向けて

< 明るさ一番ニュースレター >

市民記者(情報提供)の呼びかけを開始し、ハードルを下げた形で、より地域住民を巻き込み、繋がりや地域を知るきっかけをさらに創出していきたい。

< スマホ使い方相談会 >

アンケートからもニーズが確認できたため、ボランティアや実施エリアを拡充させ、定期開催を目指したい(既存団体との連携)

⑤明第2西地区

介護事業所と民生委員への
防災勉強会の開催と防災相談の啓発

栄町1～8丁目・栄町西1～5丁目
樋野口・古ヶ崎・古ヶ崎1～4丁目

令和2年10月時点

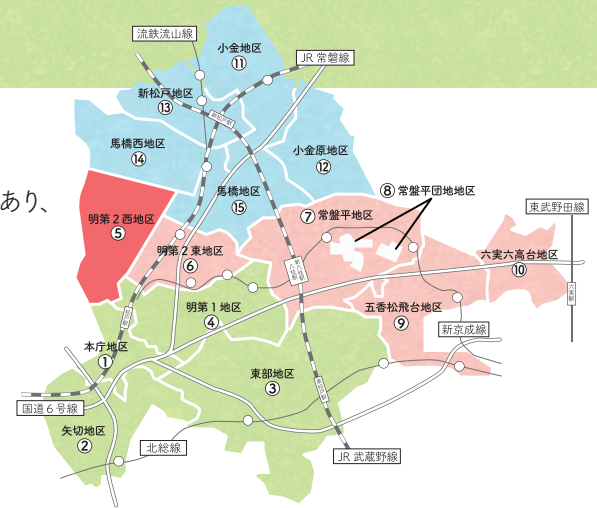
総人口	303,675人
65歳以上	8,215人
高齢化率	26.8%
75歳以上人口比率	14.5%

元気応援くらぶ=3ヶ所

河川が3本(江戸川・坂川・六間川)あり、
ハザードマップが赤の
範囲(危険区域)が広域

市平均25.7%

市平均13.4%



昨年度から防災相談を整備し今年度4月より開始したが相談(認知)が
広がらなかったことを受け、支援対象者の状況を知るケアマネジャーと民
生委員を対象に、防災相談の説明と防災知識を高める機会を企画。

コンセプト

- ◎災害に備えて、平常時にできることをサポートする
- ◎地域の高齢者を支えている関係者間の連携を強化する

防災相談の実施

- ・町会と協力してのチラシ配布
- ・民生委員との情報共有

防災勉強会の開催

- ・住民向け
- ・ケアマネジャー向け

市社協・地区社協との連携

地域包括支援
センター

近隣住民

ご近所(町会)

高齢者支
援連絡会

民生委員

ケアマネジャー

オレンジ協力員

防災相談のイメージ

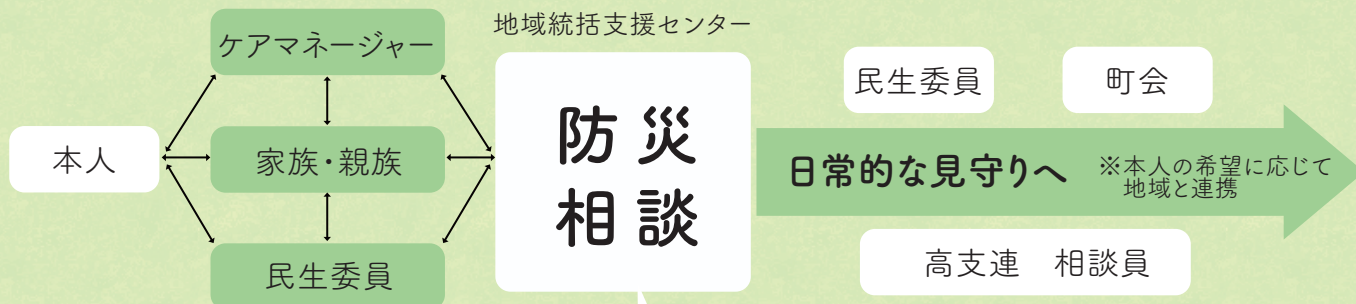
※相談は明第2西地域包括支援センターが対応

例えば、こんな方の相談を想定してます

**単身世帯・高齢者夫婦世帯・障害のある方やご家族など、災害の備えにサポートがあると
良いと思われる方。**

具体的には・・・

- ・災害対策が心配な方。
- ・コロナ禍でコミュニケーションが減ったため、防災の状況を見つつ実際に元気なのか、
生活できているのかを見てきて欲しい人など



< 災害の備えをお手伝い > ご家庭へ訪問

- ・ハザードマップの確認や該当する避難所確認のお手伝い
- ・防災チェックリストの作成のお手伝い
- ・安心カード作成/準備のお手伝いなど

防災相談

2021年度相談件数: **2件** (2022年2月現在)

現在対応中 (いずれもケアマネジャーからの相談)

- ・身体的不自由のある独居の方
- ・近隣に住む家族が災害対策を心配している独居の方

防災に関する勉強会・情報交換会

ケアマネジャー

- ・参加者アンケートより、現状の防災意識具合を把握する
- ・防災知識を得る機会を経て、参加者の防災リテラシー向上を期待

民生委員

- ・平時からの繋がりづくりへの理解を得て、防災相談の利用促進や対象者への防災視点の関わり方へ変化する

「あなたの利用者は準備できていますか？利用者支援のための防災勉強・意見交換会」

(ケアマネジャー対象防災勉強会)

日時：2021年8月16日(月)16時～17時30分

会場：古ヶ崎市民センターホール

内容：防災相談の紹介・説明

自身や利用者さんへの災害対策の情報交換

参加者：4名



「高齢者が災害を乗り越えるために必要な防災・減災」

(民生委員向け防災勉強)

日時：2021年10月19日(火)14時～16時

会場：古ヶ崎市民センターホール

内容：コープみらいさん講演

「高齢者が災害を乗り越えるために必要な防災・減災」

防災相談の紹介・説明

参加者：26名(民生委員23名)

今後に向けて

- 防災相談を継続しつつ、ケアマネジャーや民生委員、町会など地域住民の関係性づくりに寄与する勉強会の定期開催を目指す。
- 従来より防災意識が高い地域ではあるが、高齢者や障害者など多様な地域住民が参加できるよう町会等と連携し避難訓練等開催の可能性を高めていきたい。

⑥明第2東地区

防災士が語る"イザというときの備え"
～コロナ禍でもできる防災アクション～

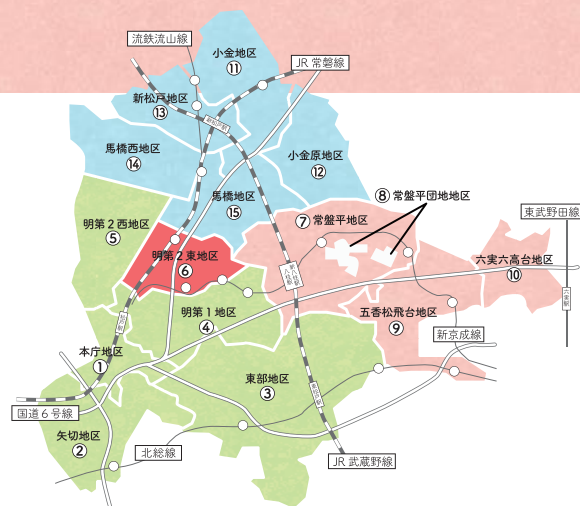
上本郷・北松戸1～3丁目・竹ヶ花・竹ヶ花西町
南花島・南花島1～4丁目、南花島中町、南花島向町

令和2年10月1日

総人口	27,331人
65歳以上	5,948人
高齢化率	21.8%
75歳以上人口比率	11.0%

市平均25.7%
市平均13.4%

元気応援くらぶ=1ヶ所



坂が多く、道路まで階段がある家も多い(主に上本郷、北松戸地区)

常磐線と国道6号線、河川で生活動線が分断されていて、西側のマンション群は、地域とのつながりが少ない
高齢化率は低く市内で3番目、都内通勤のファミリー層が多いものの、地域活動している層との交流が余りない
多くは住宅地で占められ、社会福祉法人による高齢者関連施設がなく、把握できる範囲で、社会資源が少ない。

今までの経緯

- 2019年度買い物支援の試行を実施
→たすけあいのしくみづくりを目指し、学習会実施
→その後コロナ禍で動きをつくれず
- 2020年度コロナ禍でもできる活動の提案、創出
→ラジオ体操やウォーキングの提案→2か所で実施、町会ヒアリング実施

地域づくり交流会にて、地域活動の紹介を実施

初めてこのような会に参加し、地域のなかで色々な活動があることを始めて知った

住民一人ひとりが役割があると地域活動に参加している実感が生まれる

町会にとって若い世代(ファミリー層)が見えなくなっている。

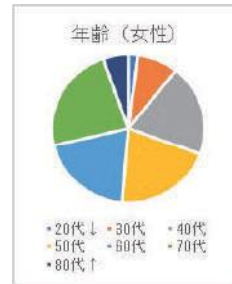
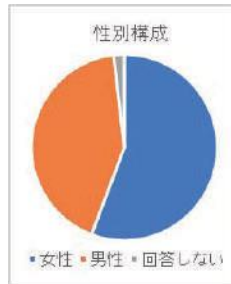
参加者からのコメント

地域資源、人材、ニーズの掘り起こしが必要

「住民アンケート」実施 → テーマ設定へ

住民アンケート

- ①調査方法紙アンケートとwebアンケートによる約1,000通配布
各町会役員配布、回覧板(実施している所のみ)、
掲示板、マンション16か所、一部戸別配布
- ②調査期間令和3年8月8日～10月9日
- ③回答総数269件



暮らしづらさ= 防災面が不安、病院・福祉施設、公共施設が遠い… 各22%
 地域に欲しい活動= 生涯学習…30% 居場所づくり(サロン)…27%
 子どもの居場所づくり…24% 勉強会・防災活動…各22%
 高齢者からの意見= 坂が多いので、移動が大変、今は元気だが足が弱ってきたら心配、
 地域のつながりが薄い所だと思う

地域づくり交流会 3月11日実施

アンケート報告会(12/5)にて意見交換

アンケートから見えてきた
 「災害」「移動支援」「居場所づくり」
 をキーワードに意見交換



「災害」… 自分ごとで考えてもらいやすい
 地域活動の入口としてわかりやすい
 「災害」をテーマに活動
 →地域資源を知る、ファミリー層との接点づくり

今後の流れ

地域づくり交流会… 自助の学習会を入口に
 ・地域資源マップ(災害編)作成、
 ・災害図上訓練DIG、我が家の避難計画など
 を通して、地域でのたすけあい、要支援者見守りの
 視点を加えていく



自分の命は自分で守ることは当たり前の中、普段からの備えをしていくから他の人についても考えることができるので、普段からの防災の意識・備えをしていきたい。

江戸川から幹線道路までの間、(栄町等)の防災についてやはり考えておかなければ、と思った。避難スイッチの設定が重要!!

参加者のコメントから

⑦常盤平地区

災害に備える地域づくり

～お互いにたすけあえるまちを目指して～

金ケ作・千駄堀・常盤平1～7丁目(常盤平団地の担当地域を除く)
 常盤平双葉町・常盤平西窪町・常盤平陣屋前
 常盤平柳町・牧の原・牧の原1～2丁目・日暮
 日暮1～8丁目・常盤平松葉町

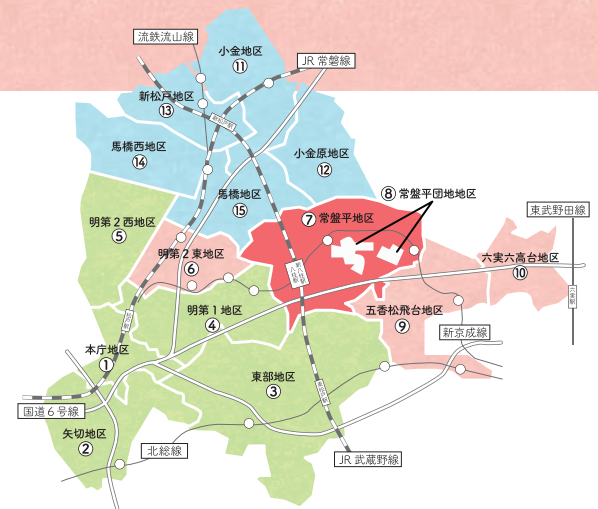
令和2年10月1日

総人口	53,147人
65歳以上	14,658人
高齢化率	27.6%
75歳以上人口比率	14.8%

市平均25.7%

市平均13.4%

元気応援くらぶ=8ヶ所



町会自治会の数は29、活動が盛んな町会が多い。範囲は広く、東西に距離がある町会では、サロンも少なく、集会所等に偏りがある。
 災害について、安全な地域というイメージはある一方、自主防災組織や避難所運営委員会などの活動が進んでいる町会もある。
 地区社協の活動が活発で、部会ごとに定期的に連絡会をもっており、特にサロンは、地域に8か所近くあり、横のつながりができている。
 地域活動の他、テーマ型の活動も多く存在する
 担い手の高齢化が課題

今までの経緯

- **2019年度 「災害弱者のための防災を考える」**
 小金原地区会防災部、避難所運営委員会立上げ者の講演会
 →町会防災アンケート、要支援者に向けた取り組みの共有
 - **2020年度** →町会、社協など核となっていた活動停止状態
 →町会アンケートから **不安!** コロナ禍での避難について町会活動ができないこと
- ・市配信「松戸市総合避難訓練」動画視聴→意見交換

避難の理想型がイメージできたので、後は町会でどこまで達成できるか、検討したい。

他の町会の防災組織についてもっと詳しく知りたい。

避難所運営の在り方を見直すきっかけになった

参加者からのコメント

「災害」をキーワードにした町会活動への働きかけを引き続き実施

- 災害時要支援者の見守り
- 避難所運営にまつわる町会の横の連携を図る
- スモールステップの達成

地域づくり推進委員会（2層ワーキング）での議論

構成員

- ・地区会副会長、地区社協事務局長、・町会長（社協や地区会の役員兼任）、
- ・高齢者支援連絡会事務局長（子ども食堂運営兼任）・基幹相談支援センター相談員
- ・地区内特養代表者・常盤平地区地域包括支援センター

「防災対策として自助/共助を高めるために地域として何ができるか」

上記をテーマに月1回、情報交換、意見交換の会議を実施

- ・それぞれの活動の共有
 - 町会：webサイト構築、見守り活動など
 - 地区社協のサロン活動、ふれあい会食会など
 - 子ども食堂の様子
 - 基幹相談から、ひきこもりの子どもを持つ親からの災害時の不安など
- ・避難所運営委員会の立ち上げ状況
- ・町会アンケート実施、回答の共有 16町会より回答



災害に備えた地域づくりにつながる事例を、地域の皆さんに
知っていただく機会をつくりたい

地域づくり交流会 3月21日実施

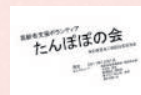


内容

- 町会アンケート報告
- 災害に備えてwebサイトを構築している町会の事例を紹介
→「Webサイト導入の背景とVision」
- 地域の見守りについて
→地区社協サロン、ふれあい会食会
→町会の見守り活動
たんぼぼの会、声かけ隊
- グループで意見交換
→災害弱者のかたを、暮らしのなかで無理なく見守れるしくみ、もしくは地域でどのように見守るか、について意見交換



地域にある見守りのしくみ



自分の地域性に合った独自の方法で行っているな、と考えさせられた。
一律にはできないが、行政や町会単位ではなく進めることが必要。



災害に備えてのwebサイト構築

⑧常盤平団地地区

常盤平団地でhappyに暮らそう

～外に出て楽しく過ごそう～

常盤平1丁目のうち駅上市街地住宅・常盤平2丁目のうち1街区
 常盤平3丁目のうち3街区・中央市街地住宅・駅前市街地住宅
 セントラルハイツ・常盤平4丁目のうちE街区
 常盤平7丁目のうち2街区・けやき通り住宅

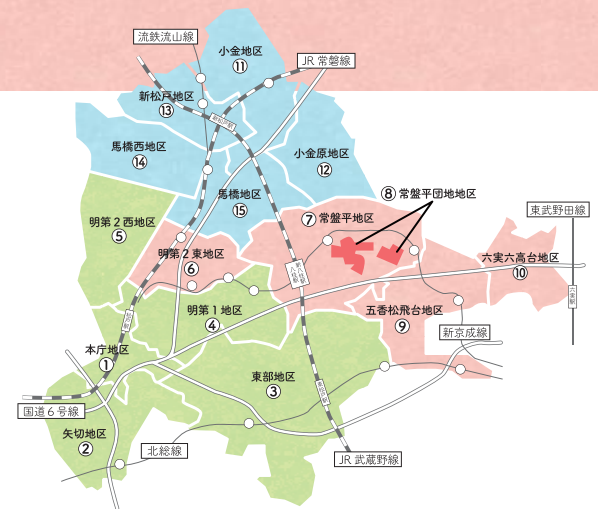
令和2年10月

総人口	6,982人
65歳以上	3,544人
高齢化率	50.8%
75歳以上人口比率	28.5%

市平均25.7%

市平均13.4%

元気応援くらぶ=0ヶ所



60周年を迎える団地のみで構成された地区で高齢化率、75歳以上比率共に最高値。

自治会に力があり、一年通して大きなイベントを開催している。(コロナ禍では中止)

外国にルーツを持つ人の割合は約10%、ほぼ中国が占める。

団地自治会、団地地区社協、団地民児協の地域活動はそれぞれ活発で結束力があるが、担い手の高齢化は否めない。

住民の高齢化で見守りが必要な独居の方が増えている、エレベーターがない棟の高齢者の移動などが課題。同じような棟が並んでいるので、外部の事業者等が認知症の方をお連れしたときなど棟番号がわかりにくく家を特定しづらい事例が最近起きている。

今までの経緯

構成員

地区会長、地区社会福祉協議会会長、常盤平団地自治会事務局長、常盤平団地民児協会会長、常盤平団地地域包括支援センター

- 2019年度 「各戸あいさつ運動」約5500世帯の1/4、1200戸対象に実施
 → 住民の顔が見えなくなっているという問題意識から実施
 支援が必要な方の情報を組織間で共有できた

- 2020年度 「顔を合わせる機会をつくろう」

※あいさつ運動は、中止を決定

10月あおぞらサロン実施

11月～E地区でのラジオ体操/毎週、開始2月からは望のひろばでも始まる

毎週火曜と木曜の朝9時前に、ラジオ体操をすることになった



あいさつ運動を実施できるタイミングを見計らいつつ、会議を実施して、コロナ禍でもできる活動を模索した。

地域づくり推進委員会（2層ワーキング）での議論

2021年5月23日（日）開催
体操をしよう@望のひろば
 3回に分けて実施延べ参加66名



2021年11月3日（祝）開催
お茶飲む会@望のひろば
 参加50名



昨年開始のラジオ体操は、住民及び包括が主体になって継続。
 住民のほぼ1割である外国籍住民の巻き込みを模索

→イベントの参加者から担い手へ

まずは関係性づくりが必要、ということでラジオ体操の中国語版作成
 棟番号表示の明確化→URと交渉中

地域づくり交流会 4月3日（日）実施予定

常盤平団地 E地区東集会所
夢佇公園で
お茶を飲む会
 春の一日、桜を眺めながらおしゃべりしませんか？
 お待ちしています
【日時】 4月3日（日曜日）
11:00 ~ 15:00
 原車付き 電動トライクで行く！
団地の桜を 楽しもう！
同時開催！
 当日10時、雨天の場合は中止です
感染予防対策をします
 ・コップは使い捨てです
 ・手指消毒・検温・マスク着用にご協力をお願いします
 ・離れて座るようにします
 ・当日各付で名前と連絡先を記入して下さい
 ・風邪症状のある方との参加はできません
 主催：お茶を飲む会実行委員会 【協力】常盤平団地 地域づくり会議
 問合せ：090 9826 3729（山崎）

【内容】

- 移動いきいきサロン
- イベント開催の少ないE地区で、実施することで、普段サロンに参加できていない住民のかたに来ていただく。
 →外に出る機会にする
 →相談窓口である包括、社協、自治会の紹介
- 終了後、1年間の活動についてふりかえり、今後のことについて意見交換を行う
- 新しい担い手の巻き込みも併せて狙いとしたい

（仮チラシ）

⑨ 五香松飛台地区

地域を楽しく歩いて、認知症予防

～まちを知ろう～

串崎南町・串崎新田・松飛台・五香1～8丁目
五香西1～6丁目・五香南1～3丁目・五香六実

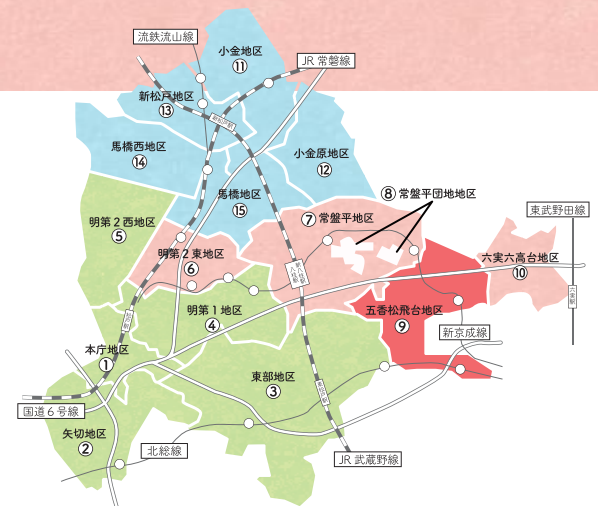
令和2年10月

総人口	36,018人
65歳以上	9,829人
高齢化率	27.3%
75歳以上人口比率	14.6%

市平均25.7%

市平均13.4%

元気応援くらぶ=5ヶ所



対象地域が広く、住宅密集地の五香/五香南地区、工業団地とその周辺の松飛台/五香西地区、串崎南町・泉が丘・串崎新田3つの自治会を有する串崎地区、と大きく3つの地域に分けて検討する。

自治力が高い町会自治会が多くあり、高齢者支援連絡会の活動など、総じて地域活動が活発。

商業施設が偏っていて、歩いて15分以上かかる区域が点在する。

テーマ型の活動が余り顕在化していない

今までの経緯

構成員

サロン運営者、子どもの居場所運営者、自治会福祉部兼務民生委員、特養地域連携担当者、市社協、五香松飛台地域包括支援センター

● 2019年度 3地区に分けてテーマ設定

「子ども食堂」「地域の見守り」「居場所づくり」

→3つの地区に分けて各自でテーマ設定、地区別に交流会を実施

● 2020年度 地区内2日間で8か所、ラジオ体操&ウォーキングを実施

コロナ禍で活動停止状態、昨年度からのテーマで進めるのは困難、と情報交換を重ねながら、少しでも外に出る機会を作り、この期間会えなかった人に会う・外でできることを体感する・活動者のモチベーション担保をねらいとして、ウォーキングを企画。

コースは地域住民の皆さんで検討を重ねて決めた。



昨年度歩いたコースの中から、3つに絞り、ウォーキングマップを作成する

→地域を歩いて認知症予防! 認知症予防マップ

→地域のことをみんなに知ってもらいたい

マップ作りウォーキング

コースを検討

実際に歩いてみて、発見したことをマップに落とす

五香・五香南



松飛台・五香西



串崎



地域づくり交流会 (3地区)

公園のベンチ、水道、トイレ、健康器具、ウォーキングにあると便利な情報を収集して掲載作成したウォーキングマップで、まちあるきを実施



3/11 五香/五香南



3/28 五香西/松飛台



3/31 串崎



⑩六実六高台地区

わたしたちのまち“六実六高台”の
タカラの地図を作って歩こう

高柳・高柳新田・六実1～7丁目・六高台西
六高台1～9丁目

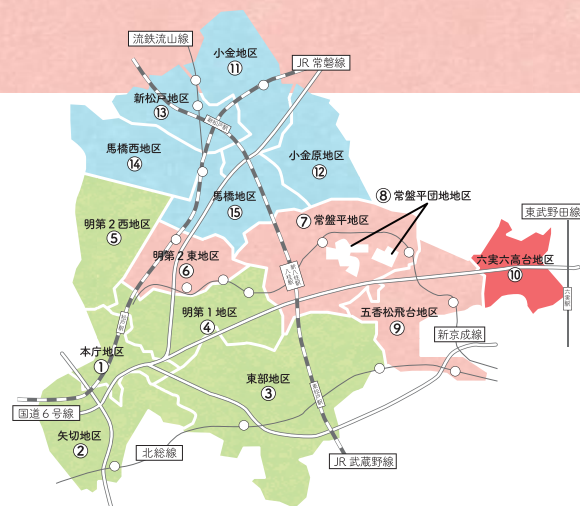
令和2年10月

総人口	23,814人
65歳以上	6,474人
高齢化率	27.2%
75歳以上人口比率	13.0%

市平均25.7%

市平均13.4%

元気応援くらぶ=5ヶ所



町会自治会、民児協、地区社協それぞれの組織の結束力と加えて、それぞれのつながりがある地域
反面、地域活動していない人（主にマンション住民）との交流が希薄になりがち
さくらまつり、六実っ子まつり、と地域のシンボルになるイベントがあり、
それが地域のつながりづくりに役に立っている。

今までの経緯

構成員

地区長、地区社協事務局長、地区民児協会長、六実地区子育て井戸端会議、
子ども食堂運営者、六実六高台地域包括支援センター

● 2019年度 「自慢できるまち六実PRIDEを育てよう」

中学校長基調講演、地区内の様々な活動紹介
→子育て世代の参加、お互いを知る機会

● 2020年度 六実六高台にキッチンカーがやってくる！

→コロナ禍で2つの子ども食堂が食材配布等で活動が拡大
→情報交換しながら、子ども食堂の活動に共鳴
・見守りが必要な家庭につながるためのツール
・つながり継続、つながり直しのきっかけ



コロナの継続で、イベントなどが中止になるなかで、ウォーキングを進めていきたいが、
六実六高台はウォーキングするのに余り史跡や見所が少ない、という意見あり

→この地区から見所や魅力を地域の皆さんから
寄せてもらって地図を作ることになった

地域の人から情報収集して地図作り

わたしたちのまち **タカラ**
六実六高台の**宝**をみつめよう!
みんなでシェアしよう!
楽しんでやおう!
ぜひ皆さんの**タカラ**を教えてください!

12月5日まで

- 自分のうちの近くで...
- 学校までの道で...
- 友だちと遊びに行った時...
- 散歩、ウォーキングをしていて...

あれ? これって面白い!
すてき! なんだろう??
これがあるからこのまちっていいんだよねー
みんな知ってるのかな? 教えてあげたいな
そんなことあったら...

★皆さんの**タカラ**を集めて六実六高台の**タカラ**の地図を作ります!
わたしたちのまち
★3月に**タカラ**巡りウォーキングをします!

お宝応募&ウォーキング参加で**景品**をGETしよう!

お宝入力フォーム

主催：六実六高台地域づくり委員会
共催：六実六高台地区会、六実六高台地区社会福祉協議会、六実地区子育て支援協議会
六実地区民生委員、児童委員協議会、子ども食堂「ことみりカフェ・六実わいわいがや」
協力：六実六高台総合いきいきセンター、六実のまちづくり協議会、六実児童発達支援センター

お問い合わせ：事務局 050-5472-9841 (山崎)

- ・六実支所
- ・六実市民センター
にアンケートBOX
- ・学校で配布される
「さわやか六実」に掲載

わたしたちのまち **タカラ**
六実六高台の**宝**をまわって
ウォーキングをしよう!

ウォーキングしながら、あなたのまちの**宝**を見つけよう!
ウォーキングを楽しもう!

発行：六実六高台地域づくり委員会
印刷：山崎印刷 (050-5472-9841) 編集：山崎印刷

地域づくり交流会 3月27日実施

久しぶりに歩いていい運動になった

マップの違う場所にも興味を持った

話しながら歩いて色々教えてもらうことができた。

わたしたちのまち **タカラ**
六実六高台の**宝**をまわって
春! ウォーキングをしよう!

2022 3.27(日)

集合場所 六実第2公園 (050-5472-104)

開演 9:50集合

感染予防にご協力ください
当日、飲み物、タオルなどお持ちください
雨天中止 (開始一時間前までご連絡ください)

お問い合わせ：事務局 050-5472-9841 (事務局：山崎)

いざスタート!



夢のポストで記念撮影



地域のお店で昔語りに耳を傾ける

⑪ 小金地区

小金にこんなことあったらいいなプロジェクト
～地域の助け合い活動について考える～

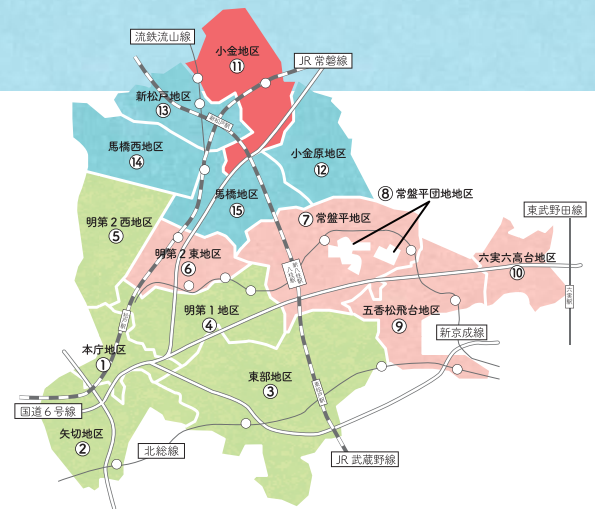
幸田・幸田1～5丁目・中金杉1～5丁目・平賀・東平賀
殿平賀・久保平賀・大金平1～5丁目・大谷口・小金
小金きよしヶ丘1～5丁目・小金上総町・小金清志町1～3丁目
ニッ木・ニッ木二葉町・根木内(国道6号西側)

令和2年10月

総人口	44,000人
65歳以上	11,074人
高齢化率	25.1%
75歳以上人口比率	12.9%

市平均25.7%
市平均13.4%

元気応援くらぶ=4ヶ所



- 元々地域活動が活発な地域で、町会自治会、地区社協、民生委員などの活動に参加している人同士のつながりが強い。
- 元々宿場町であった土地柄、古くから暮らしている住民の地域への愛着は強く、今後は新住民にも広げていく方法の検討が必要。
- 比較的若い世代も暮らしているが、地域活動に参加するきっかけがなくなっている。

ワーキングのテーマ設定の経緯

- 昨年度は子ども～高齢者まで異なる分野で活動している担い手同士の交流をテーマとした。高齢化が進む中で日常的な困りごとに対し、どのように地域で対応していくことができるか、一歩踏み込んだ活動が求められている。
- 町会活動を始めとして、高齢者の課題に対し、担い手側も高齢化が進む中で取り組んでいる状況がある。今後持続的に地域活動を進めるためには、世代を超えて助け合える「お互いさま」の関係を築いていくことが必要になるのではないか。



ワンコインでの助け合い

活動をテーマとした多世代交流

世代を超えた地域活動をつなぐことを目的とした 「こがねっとhotニュース」(動画配信)



中学校での取り組みや高齢者の通いの場など、取材対象を幅広くすることでお互いを知る機会に。

地域づくり交流会「小金にこんなことあったらいいなプロジェクト ～地域の助け合い活動について考える～」



オレンジ協力員や町会の方、広報を見て初めて参加した方も含めて15名が参加した。交流会では柏市で取り組まれている事例を聞き、今後の活動のイメージを共有した。アンケートでは担い手として活動に参加したいという方が8割だった。

交流会のふりかえり～次年度に向けて

地域のニーズを知るために地域や学校で助け合い活動についてのアンケートを実施(200件の回収)。困りごとの傾向を調べるとともに、活動に参加頂ける方を募り、約4割が活動に参加しても良いという結果が見られた。

今後も定期的に情報交換できるような場づくり、実際にモデル事例として進めるために町会と連携した取り組みを行う予定となっている。

軽度認知症の方や子育て世代での困りごとなど、地域の支援を必要とするニーズに対応していくための体制づくりに取り組んでいく。

どのようなニーズがあるのか、またどういった支援であれば持続的に行っていくことができるのか、身近にできることを多世代を巻き込みながら進めていきたい。

⑫ 小金原地区

8050・ひきこもりを当事者の視点から考える
～困りごとをキャッチできる地域を目指して

根木内(国道6号東側)・小金原1～9丁目・栗ヶ沢
八ヶ崎1丁目・小金1700番台

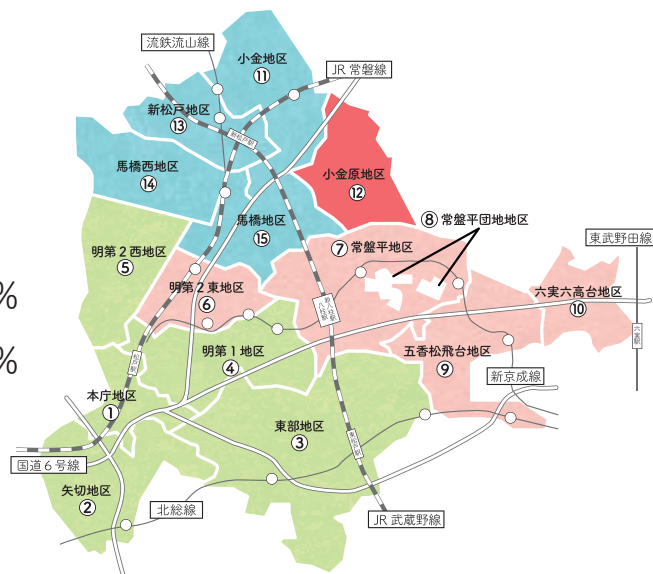
令和2年10月

総人口	27,500人
65歳以上	9,096人
高齢化率	33.0%
75歳以上人口比率	19.3%

元気応援くらぶ=2ヶ所

市平均25.7%

市平均13.4%



- 地区内に有する小金原団地が市内で最も高齢化率の高いエリアとなり、50%を超えている所もある。地域活動が盛んであり、元気なシニアが多い。
- 8050に象徴されるような、ひきこもり状態や障がいのある家族といった複合的な課題を抱えた家庭のケースが多々見られる。

ワーキングのテーマ設定の経緯

- 昨年度に検討テーマとしていた団地での助け合い活動については、有志6名が集まり任意団体として活動をスタート。ワクチン接種の予約相談や水道の水漏れといったちょっとした困りごとに対応している。
- 包括の相談ケースから、8050やひきこもりといった複合的な課題を抱える世帯へのアプローチが懸念に挙がった。専門職が関わるまでに問題が深刻化してしまうことがないよう、日常の中でSOSを見つけられる機会、人材を増やしていくことが求められている。



孤立を防ぐきっかけづくり、8050・ひきこもりへの理解



小金原6-7団地暮らしお助け有志の会

会則を整えて、ポスターを団地内に掲示するなど少しずつ事例を重ねている。
7月～12月にかけて延べ10件の依頼があって対応した。

地域づくり交流会「小金原の8050・ひきこもりを考える」

～困りごとをキャッチできる地域を目指して～

- 参加者 概要…地区長、民生委員(新旧)、オレンジ協力、近隣住民など15名が参加。
- ひきこもりについて偏った視点ではなく、理解を深めてもらうことを目的として、基本的な知識と当事者からヒアリングした声を事例としてお伝えした。グループでは身のまわりで感じている課題について情報交換を行った。

交流会のふりかえり～次年度に向けて

- ワーキングで話し合ってきた、8050 やひきこもりに関連した困りごとをキャッチするために地域住民に知っていただきたいことを伝えることができた。
- 参加者としてはまだ肌感覚として理解ができない、という声もありつつ、何かあった時にどこにつなげば良いのか分かったという感想が多かった。
- 今回お伝えした内容を一部の思いがある人だけではなく、より多くの地域の人たちに広げていく必要がある。
- セミナーで伝えなかった要点をまとめて開催レポートのような形で発行していくこと予定している。

⑬新松戸地区

横須賀1～2丁目・新松戸1～7丁目・新松戸東
新松戸北1～2丁目・小金1100～1300番台

歩き続けられる街を目指す

公園での健康づくり活動&ベンチプロジェクト

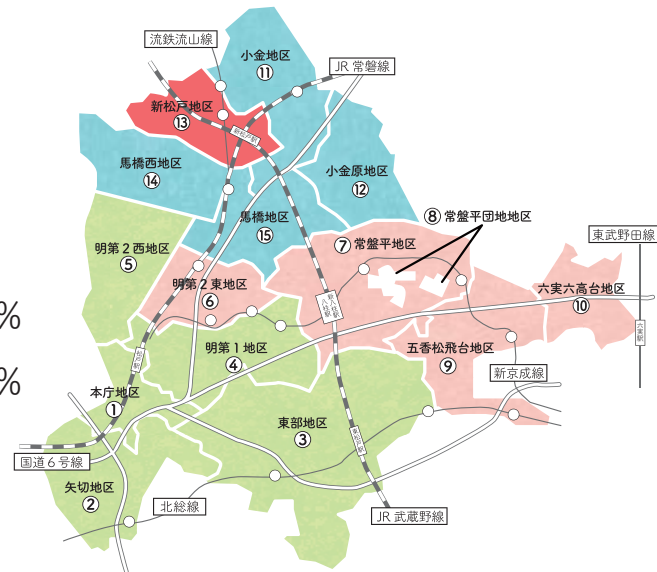
令和2年10月

総人口	37,300人
65歳以上	10,564人
高齢化率	28.3%
75歳以上人口比率	12.6%

市平均25.7%

市平均13.4%

元気応援くらぶ=12ヶ所



- 通いの場をはじめ、マンションでのサロン活動など介護予防の資源が豊富にあったが、コロナ禍で活動停止になっているところも多く、フレイルの加速も課題になっている。
- 1970年代に開発された中・大規模マンションが多く、一斉に高齢化が進んでいる状況にある。特に後期高齢者の比率が高まるにつれて要介護者の急増も予想される。

ワーキングのテーマ設定の経緯

昨年度実施した公園での体操について、開催を求める声が多かったこともあり、定期開催に向けて準備を進めた。改めて2層ワーキングの方針を話し合い「歩き続けられる街」を目標に活動していくことになった。

以前から接点のあった地区社協の役員の方々と共に、街中にベンチまたは椅子を増やして歩きやすくするプロジェクトを検討し始め、次年度から本格的に実施するために準備をしている。



公園を使ってリスクを軽減しながらフレイル予防する



公園DE健康づくり ～青空体操&フレイル予防～

11月の地域づくり交流会からスタートし、1月・3月と隔月で定期開催している。概ね70代～80代の方が15名ほど参加してストレッチや筋トレ、ウォーキングなどに取り組んでいる。



地域づくり交流会 子ども～シニアまで!公園DE健康づくり ～青空体操&まぜこぜ体験～

11月23日(火・祝)@新松戸中央公園(約50名)
定期開催する第4火曜が祝日に重なったため、ウォーキングメンバーの得意なことを活かし、子どもや親子でも参加できるような内容として、遊び場コーナーや障がいについて体験できるプログラムを実施した。

交流会のふりかえり～次年度に向けて

- アンケートから外出や社会参加を控えている方が多いことが分かり、公園での体操についてニーズが高まっている。
- 感染状況を見ながら定期開催できる頻度で同様の機会を提供していくことを予定している。今後は受け入れのキャパの課題や周知方法を検討したい。
- 地域全体でフレイル予防を進めるための取り組みの検討
- 新松戸高支連を中心にフレイル予防の観点を広げていくことを予定されている。他地域で実施している事例も踏まえながら、正しい知識を知って伝えられる人を増やしていけないかを検討していく。

⑭馬橋西地区

旭町1～4丁目・外河原・七右衛門新田・主水新田
 新松戸南1～3丁目・西馬橋1～5丁目
 西馬橋相川町・西馬橋蔵元町・西馬橋幸町
 西馬橋広手町・馬橋(JR線西側)

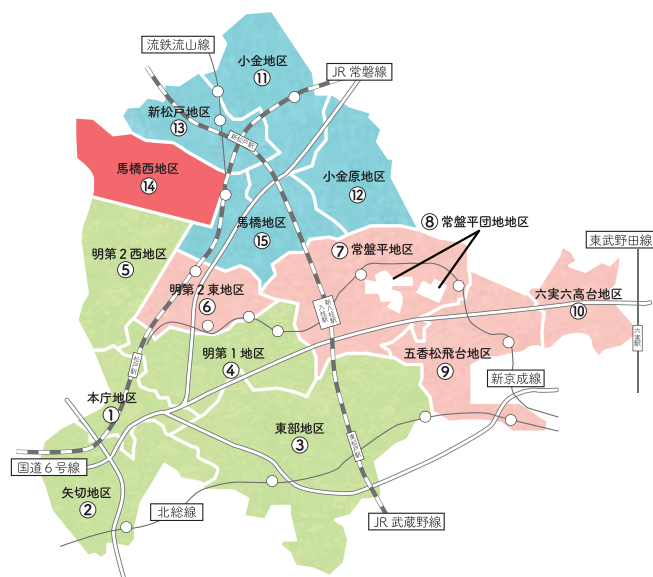
男性シニアの社会参加を
 当事者に近い属性の方々と共に考える
 ～ゴミ拾い&ウォーキング～

令和2年10月

総人口	22,600人
65歳以上	5,841人
高齢化率	25.8%
75歳以上人口比率	13.3%

市平均25.7%
 市平均13.4%

元気応援くらぶ=2ヶ所



- 駅前周辺、住宅地域、江戸川近辺といったエリアによって住民層の特徴が異なる。
- 公共施設や福祉施設といった資源に乏しく、高齢者が気軽に集える通いの場などが少ない。
- 高齢化率としてはゆるやかに上昇しており、農家が多いエリアでは高齢化率が40%近くになっている。

ワーキングのテーマ設定の経緯

昨年度防災を切り口として地域での関係性づくりに取り組んでいたが、コロナ禍でコミュニティ活動が軒並み停止している中で、社会参加の重要性が高まっている。

昨年度防災を切り口として地域での関係性づくりに取り組んでいたが、地域で孤立しがちな高齢者、特に独居の中年～高齢男性はつながる機会が少なく、今まで居場所になっていた居酒屋なども集まりづらくなっている。また参加を促す先の活動の選択肢が少ない、または休止している状況にある。



ターゲットに近い属性の方々と
 ワーキングの立ち上げ



「ゴミ拾い&ウォーキング」 活動のスタート(10月～)

話さなくても参加できる、役割を持つことでハードルが下がるという点から着想し、現在は毎月第2月曜の朝に駅前に集合して毎回約10名ほどで活動している。



地域づくり交流会(1月10日)

「笑って楽しく健康づくり～落語で介護予防～」

参加者…13名

(地域でボランティア活動している方、オレンジ協力員の方など)

ワーキングの活動のPRも兼ねて、参加しやすい企画を設定した。人数は多くなかったが、元々地域でコミュニティ活動をしていたグループの代表が参加をしてくださり、今後の活動につながった。

交流会のふりかえり～次年度に向けて

- 地域に暮らしているメンバーを募り、新たに社会参加の場を立ち上げることができた。少しずつ新しい参加者が増えてきているので、定着していけるようコミュニティ作りをしていきたい。
- コロナの感染拡大などもあり、あまり積極的なPRができていないため、今後は町会への働きかけなども行っていく予定。
- 高齢化(後期高齢者)がかなり進んでいる農家エリアにおいて、課題が見えづらいという状況があるため、検討していきたい。
- 農業に現在も携わっていたりする方は比較的元気な方も多いが、土地柄として家庭のことは家庭で解決する風土があり、課題が見えにくい傾向にある。

⑮馬橋地区

馬橋（JR線東側）・三ヶ月・幸谷・八ヶ崎・八ヶ崎緑町
八ヶ崎2～8丁目・中根・新作・中根長津町・中和倉

高齢者×ペットの問題を
地域で予防するための
コミュニティづくり

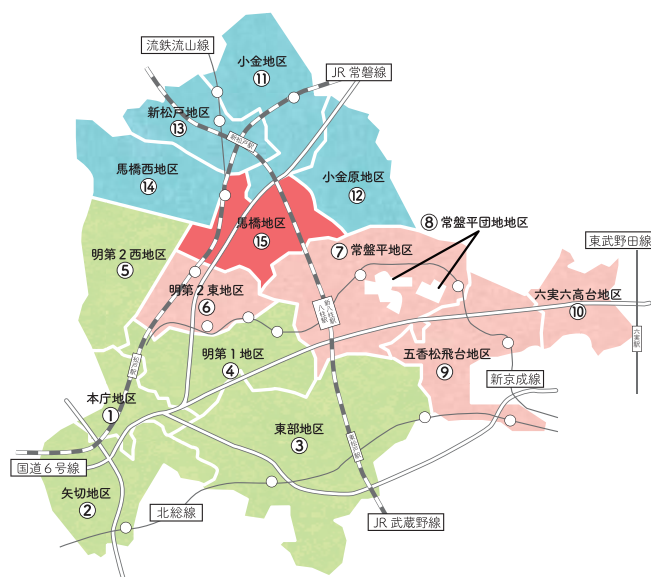
令和2年10月

総人口	40,000人
65歳以上	9,457人
高齢化率	24.2%
75歳以上人口比率	12.6%

市平均25.7%

市平均13.4%

元気応援くらぶ=3ヶ所



- 町会によっては戸建てが増えていたり、子育て世帯の転入も多いエリア。
- 元々町会自治会、地区社協をはじめとした地縁活動が盛んな地域である一方でボランティアの高齢化も課題となっている。
- コロナ禍の影響で行事などが軒並み中止となっていることもあり、コミュニティ活動の継続が危ぶまれている。

ワーキングのテーマ設定の経緯

- 昨年度テーマとしていた居場所づくりについては、別事業の枠組みで地域住民が参画する実行委員会が立ち上がり、実現に向けて検討を進めている。
- 包括の相談ケースから、独居の高齢者でペットを飼っている方について、ペットの世話が課題で健康不良にも関わらず通院がままならない問題が挙げられた。また別地域ではあるが、急遽入院をしなければいけない状態になり、その間のペットの預かりが課題となる事例があった。



いざという時の備え、預かりボランティア養成の検討

高齢者の生活サポートにつながる ペット保護ボランティアについての 意見交換会



10月19日（火）10時～12時 馬橋東市民センター
主催：馬橋地区2層ワーキング（高齢者の暮らしを支える地域づくり）
協力：馬橋高齢者いきいき安心センター
事務局：阿部剛（まつどNPO協議会・生活支援コーディネーター）

<本日の流れ>
①自己紹介、本日の趣旨と精神についてご説明
②ペット保護ボランティアについての概要
③意見交換

ペット預かりボランティア 意見交換会

預かりボランティアに関心を持つ人を対象に集まっていたいただき、どのように実現していけるかを検討した。関係性の薄い人同士で預かりをすることのハードルの高さが挙げられ、事前のコミュニティ作りが必要であるのではないかという意見があった。

馬橋地区地域づくり交流会

ペット×シニア 交流会

- ・ミニセミナー
「いざという時に備えて
おきたいペットの話
～病気・災害・終活～」
- ・活動紹介
～神戸の地域猫活動～
- ・情報交換タイム



地域づくり交流会

高齢者×ペットシニア交流会
いざという時に備えておきたいペットの話
～病気・災害・終活～

参加者：3月6日に実施予定
会場：馬橋東市民センターホール

交流会のふりかえり～次年度に向けて

- 地区内には野良猫が増えている場所があったり、多頭飼育のリスクがある家庭も見られ、ペットの正しい飼い方を啓発していく必要がある。また、いざという時に備えておくべきことを伝えていく場を広げていく。
今後知っておいてもらいたい情報をまとめたリーフレットなどの発行を検討していく。
- 社会参加しやすい場のひとつとしての交流の機会を作る
地域づくり交流会を経て、シニア×ペットのコミュニティ作りを進めていながら、今後の預かりボランティア養成につなげていきたい。

地域づくり報告会

日時：2022年3月7日(月)13:00～15:45

形式：会場(サテライト会場)+オンラインによる開催

※主なサテライト会場

まつど市民活動サポートセンター、
ふれあい22、青少年会館、各地域包括支援センター、
地区社会福祉協議会、集会所など

主催：特定非営利活動法人まつどNPO協議会・
松戸市地域包括ケア推進課

参加者：89名(オンライン34名)

概要

15地区ごとに取り組んだ2層ワーキングや地域づくり交流会の事例について、全体で報告を行うことで情報共有の機会とすると共に、昨年度に続き自治会等地域づくり支援の経験や知見が豊かな川北秀人氏(IIHOE[人と組織と地球のための国際研究所]代表)を講師に招き、各地区の活動に対するフィードバックや松戸市の人口統計より今後すべき自治のあり方などについてご講演いただいた。

ゲストからの講評

一部抜粋

「居場所」と「出番」はキーワード。各地区の取り組みはこのキーワードが引き立つようになってきた。

地域で世代を超えた交流を図る際、現役世代の働き方が多様化しており休日が多様な場合が多い。実態把握の中で地域参加が可能な日程についても何うと良い。

これからの10年は前期高齢者は減少するが85歳以上の高齢者はまだまだ増加。また世帯数は減少するが独居は4割増加する(特に高齢女性)ことが予測される。今後は若者や女性の気持ちと力を活かす地域づくりが必要である。

自治を回復し、
まち・むらの課題を、
まち・むらの力で解決するために
- 協働から総働・小規模多機能自治へ -

IIHOE[人と組織と地球のための国際研究所]
代表者 兼 ソシオ・マネジメント編集発行人 川北 秀人
<http://blog.canpan.info/iihoe/>
Proud to be a partner of the changes you make.
Inspiring Social Innovations since 1994.

男性の社会参加を考えると、無報酬だとハードルが高い場合がある。地域課題の可視化した上で、サポーターとしての出番を有償とすることも工夫の一つ。

介護ケースは80歳代で急増する→高齢化「第2幕」①

単位:千人	2005年	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年
65-69歳	7,433	8,210	9,444	8,239	7,163	7,467
要介護3以上	63	68	73	67	59	61
人口比・構成比	0.8%/1.1%	0.8%/0.8%	0.8%/0.8%	0.8%/0.8%	0.8%/0.8%	0.8%/0.8%
前期高齢者で要介護3以上は1.1%						
要介護3以上	122	121	123	113	129	113
人口比・構成比	1.8%/2.4%	1.7%/1.5%	1.7%/1.3%	1.7%/1.4%	1.7%/1.8%	1.7%/1.5%
75-79歳	5,263	5,941	6,277	7,111	8,492	7,196
要介護3以上	199	226	220	250	298	253
人口比・構成比	3.8%/15.3%	3.8%/13.6%	3.5%/11.3%	3.5%/10.5%	3.5%/10.8%	3.5%/8.7%
80-84歳	3,412	4,334	4,951	5,495	6,102	7,383
要介護3以上	274	351	386	420	474	524
人口比・構成比	8.0%/21.0%	8.1%/21.1%	7.8%/19.8%	7.8%/17.6%	7.6%/17.2%	7.8%/18.4%
85-89歳	1,849	2,433	3,117	3,740	4,081	4,652
要介護3以上	297	407	500	600	655	750
人口比・構成比	16.1%/22.9%	16.7%/24.9%	16.1%/23.7%	16.1%/25.3%	16.1%/23.7%	16.1%/24.1%
90-94歳	841	1,022	1,349	1,838	2,239	2,496
要介護3以上	237	311	411	561	693	761
人口比・構成比	28.2%/18.3%	30.5%/18.7%	30.5%/21.2%	30.5%/23.5%	30.5%/24.7%	30.5%/24.5%
95歳以上	237	341	421	625	682	1,138
要介護3以上	166	176	222	220	266	461
人口比・構成比	4.6%/8.3%	9.7%/13.6%	52.8%/11.4%	52.8%/13.9%	52.8%/16.9%	52.8%/19.3%
計	25,672	29,246	33,465	36,192	36,777	37,160
要介護3以上	1,300	1,661	1,946	2,381	2,764	3,112
85歳以上	2,927	3,795	4,887	6,203	7,203	8,306
要介護3以上	643	895	1,134	1,491	1,804	2,112
人口比・構成比	22.0%/14.4%	21.4%/15.3%	23.2%/15.3%	24.0%/19.4%	25.0%/19.3%	25.4%/19.2%

85歳以上の4人に1人が要介護3以上
2020年→30年 前期高齢者 18%減



発行

特定非営利活動法人まつどNPO協議会

生活支援体制整備事業(松戸市から受託)の取り組みとして実施しました